【様式4】

平成　21　年　12　月　15　日

上町台地マイルドHOPEゾーン事業
まちづくり提案事業助成　事業報告書

1　申請団体・グループ名

NPO（市民団体）OSAKA ゆめネット

共同事業者名（あれば記入してください）

2　事業のテーマ・タイトル

難波宮で学ぶ！　遊ぶ！　体験する！　＆キャラクター制作

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3　事業の時期と実施内容等

時　期	実　施　内　容　等
4月	後援、共催依頼、難波宮史跡公園使用許可申請
5月	企画運営会議、１回目開催
6月	運営会議２回目開催、ちらし印刷
7月	ちらし印刷　運営会議３回目、スタッフ会議２回開催、フェスタ開催
8月	着ぐるみ制作会議、審査会
9月	着ぐるみ制作
10月	〃
11月	着ぐるみ発表、報告書作成
12月	報告書作成、印刷

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4　事業の効果・今後の展望

効　果	フェスタ当日は、不安定な天候にもかかわらず、1,025 名の方々に参加していただいた。大人も子どもも楽しく学び、ふれあうことができ、難波宮の知識が深まったことがアンケート調査でも明らかとなった。
今後の展　望	毎年継続することで定着を目指す。また、大阪で活躍する多くの団体にこれからも参加を呼びかけ、新しい枠組みの仲間作りと交流に寄与したい。参加型とし、大人だけでなく次世代を担う子どもたちを育むことにより、地域社会全体へ大きく貢献していけるよう考えていく。 また、キャラクターも決まり、着ぐるみも出来上がったので、様々な場所で登場するように広く周知していきたいと考えている。

※「３　事業の時期と実施内容等」、「４　事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。

【様式４】

平成 21 年 12 月 9 日

上町台地マイルドHOPEゾーン事業
まちづくり提案事業助成　事業報告書

1 申請団体・グループ名

ＮＰＯ法人大阪ワッソ文化交流協会

共同事業者名（あれば記入してください）

2 事業のテーマ・タイトル

四天王寺ワッソアカデミー

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3 事業の時期と実施内容等

時　期	実　施　内　容　等
４月	四天王寺ワッソ参加者募集開始
９月	四天王寺ワッソ演奏練習開始　※上町台地のガイダンス
１０月	四天王寺ワッソ開催広報開始
１１月	１日（日）四天王寺ワッソ雨天のため本祭中止。代替イベントとして大阪歴史博物館にて同日、「四天王寺ワッソアカデミー発表会」を開催

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4 事業の効果・今後の展望

効　果	1）四天王寺ワッソは雨天により中止となったが、本事業に参加して、四天王寺ワッソに出演する予定だった高校・大学生ら約300人は、大阪歴史博物館にて雨天中止代替イベントとして開催した「四天王寺ワッソアカデミー発表会」に出演した。観客は約700人 2）「四天王寺ワッソアカデミー発表会」を通じて、学校以外での人的な交流を体験することができた。 3）日頃の練習成果を父兄や先生に披露できる場を創造できた。 4）日韓の芸能競演を行うことで親密な両国関係を確認できた。 5）大阪の文化力向上に貢献できた。
今後の展　望	・参加単位を学校や団体にまとめることで、練習や参加方法の効率化を図る。 ・参加経験校においては、課外活動としてではなく、学校のカリキュラムの一環として、継続的に取り入れてもらえるよう働き掛ける。 ・四天王寺ワッソアカデミー経験者を練習や企画面での講師として育成し、市民ボランティアによる運営を目指す。 ・四天王寺ワッソ終了後、アカデミー参加者の評価（表彰制度等）を行い、参加者の達成感を与える。 ・四天王寺ワッソアカデミーを継続させることは、未来を担う若者が上町台地の歴史や文化の伝承者として育成されていくという意義がある。

※「3　事業の時期と実施内容等」、「4　事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。

【様式4】

平成　22　年　　2　月　15　日

上町台地マイルドHOPEゾーン事業
まちづくり提案事業助成　事業報告書

1　申請団体・グループ名

一茶菴宗家

共同事業者名（あれば記入してください）

親学の会“陽ーひなた”スタッフ・料理研究家　藤井由美子

2　事業のテーマ・タイトル

文人趣味の世界を知る（煎茶文人サロンと親学（食育教育）を柱に）

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3　事業の時期と実施内容等

時　期	実　施　内　容　等
7月	17日　文月のサロン（幽　への誘いー文人サロンへの第一歩）　玉露
8月	休み
9月	18日　長月のサロン（月を観る
10月	16日
11月	20日
12月	18日
1月	15日
2月	12日

※実施した事業を月ごとに記入してください。

※食育は、別紙プリント添付

※2月サロン、茶会　プリント添付

4　事業の効果・今後の展望

効　果	親学の理念を、実際に文化（煎茶サロン）や歴史を体験することにより、参加者に伝えることができた。又、「自娯」の世界に身を置くことにより、非日常の時間を得、リラックスタイムにもなった。
今後の展　望	「続けて欲しい」との声が強い。今回は、メンタルな部分へのアプローチを主としてきたが、少し取り入れた「和の礼」などももっと教えて欲しいとの要望もあり、今後は、「美しい自己表現」や「他者との関係」などサロンの持つ「コミュニケーション様式」なども体得できればと思う。

※「3　事業の時期と実施内容等」、「4　事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。

【様式４】

平成　21　年　　9　月　　1　日

上町台地マイルドHOPEゾーン事業
まちづくり提案事業助成　事業報告書

1　申請団体・グループ名

NPO 法人　天王寺 21 協議会

共同事業者名（あれば記入してください）

2　事業のテーマ・タイトル

第１回「大阪　心の百景」ぼんぼり展

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3　事業の時期と実施内容等

時　期	実　施　内　容　等
7月	7/21、作品搬入〆切り、作品を選定　73 点をぼんぼり仕様に加工
8月	8/7、8、9（天王寺公園慶沢園）、8/11、12（生國魂神社参道）で展示
9月	（詳細添付）
10 月	
11 月	
12 月	
1月	
2月	

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4　事業の効果・今後の展望

効　果	初の試みとして、主催者側、出品者ともに戸惑いがありましたが、展示が始まると、賞賛の声が高まり、是非このイベントを定着させて欲しいとの要望が寄せられました。天王寺公園の夜間開放（本年は無料）、生國魂神社の大阪薪能との併催を含め、大きな効果を上げる事が出来ました。
今後の展　望	天候に左右される弱い面がありますが（とくに本年は天候不順が８月に入っても続き）、来年も続けたいと思います。事前の PR 不足も反省点のひとつです。

※「３　事業の時期と実施内容等」、「４　事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。

第一回　「大阪 心の百景」ぼんぼり展
事業実施報告

平成21年9月 1日

都心の夏の宵に「大阪 心の百景」をテーマにぼんぼり展を開催。本年 大阪府の「光」のページエントに呼応する形で広く一般より公募。
懐かしい大阪の風景、行事などをモチーフに描いて頂きぼんぼり(ボックス形)を作成、夏の夜のひとときを、人々の心の癒し・心の触れ合いの場として、都心の夏の宵に天王寺公園(慶沢園)・生國魂神社参道を会場として開催。

5月中旬より印刷物(チラシ・ポスターを制作)一般公募及び大阪を描こう会会員に呼び掛けを行いスタート。始めての試みとあって応募する側の戸惑い、主催者側の試作段階での曲折があったものの、作品締きりの7月21日には114点の作品が持込まれた。一次審査で73点を選びぼんぼり用のフィルムに加工。

8月7日(金)の初日、慶沢園に15:00から準備に入り、天王寺公園の夜間開園、動物園の無料開放(本年は7/18～8/26)があり、明るいうちから多くの人が集まった。
宵闇が迫るころからぼんぼりの絵が変化し、浮かび上がりあちこちで感嘆の声が上がり、空模様を気にしていた関係者もほっと一息。翌8日も会場は賑わいをみせたが、9日の最終日に恐れていた俄雨が午頃から強くなり、15:00に現場で中止を決定

11日は生國魂神社 参道を使っての展示で、14:00より準備、この日は境内で大阪薪能が催され、相乗効果を期待しての展示とあって人の出足は良かったが19:00頃より強烈な雨、薪能も中止となりぼんぼり展も急遽中止となり、最終日の12日は21:00まで全う出来たものの、天候に左右された今回の催事でした。

両会場ともに、実際にご覧になった方々からは賞賛のお声を頂きましたが、雨対策にビニールのカバー等の用意をしたものの反省課題が残りました。

写真資料添付　　(会期中来場者推定5000～6000名)

□ぼんぼりBOX仕様
400×320×h320mm(画面400×320)額縁入り・絵画フィルム仕上げ
本体カラーボール合紙 組立方式　照明ランタン(単一電池4本)

NPO法人　天王寺21協議会

6　事業区域

本年は 7/18～8/26 まで公園・動物園が無料解放された
市立天王寺公園(慶沢園)8 月 7・8・9 日、(夏期夜間開園日)
生國魂神社 庭園で 11・12 日に実施　但し雨天の場合は中止

7　実施スケジュール

時　期	実　施　内　容　等
4 月	大阪を描こう会、絵てがみコンクール入選者に告知案内
5 月	一般公募(ポスター・チラシの設置)
6 月	公募中
7 月	公募中　　7 月 21 日公募受付け締きり・・作品の選定、ぼんぼりの作成 入選者に案内ハガキを進呈
8 月	7・8・9 日天王寺公園(慶沢園)　9 日は雨天の為中止 11・12 日生國魂神社　18:00～21:00　両日大阪薪能と併催 21 日　作者に作品返却、同時に入賞者授賞式を行う
9 月	
10 月	
11 月	
12 月	
1 月	
2 月	

【様式４】

平成　　年　　月　　日

上町台地マイルドHOPEゾーン事業
まちづくり提案事業助成　事業報告書

1 申請団体・グループ名

なにわ人形芝居フェスティバル運営委員会

共同事業者名（あれば記入してください）

2 事業のテーマ・タイトル

大阪の陣問答

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3 事業の時期と実施内容等

時　期	実施内容等
7月	
8月	
9月	
10月	企画会議　企画書づくり　脚本・演出・出演者関係決定
11月	演劇・講談の構成案、台本製作開始　台本完成　チラシ製作
12月	「大阪の陣問答」の質問内容決定
1月	協力団体との打ち合わせ　実施内容の詰め　稽古開始
2月	リハーサル　2/7日曜日実施

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4 事業の効果・今後の展望

効　果	助成金のおかげで、北川央先生などの歴史専門家の方々以外に、ぼんちおさむ、桂小春團治、旭堂南湖、OSK日本歌劇団の方たちに参加してもらうことができ、華やいだイベントになりました。また今まで歴史にそれほど興味を持っていなかった人々も参加してもらい、「楽しくてためになった」という好評をいただいた。
今後の展望	今後助成金なしでのイベントになりますが、歴史を身近に感じていただく手段を得たので、あまりお金のかからないイベントにし、２０１５年まで続けていこうと決めました。また時間をかけてこの辺りの歴史遺産を掘り起こすための仕掛けを考えていくつもりです。

【様式4】

平成　22　年　　3　月　10　日

上町台地マイルドHOPEゾーン事業
まちづくり提案事業助成　事業報告書

1　申請団体・グループ名

おもしろ農業プロジェクト

共同事業者名（あれば記入してください）

2　事業のテーマ・タイトル

「おいしいやさい、たべやさい」
～つくるひとと食べる人つながる、上町台地～

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3　事業の時期と実施内容等

時　期	実　施　内　容　等
7月	
8月	
9月	
10月	
11月	ミーティング
12月	ミーティング
1月	ミーティング
2月	2月27日、28日「おいしいやさい、たべやさい。」開催

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4　事業の効果・今後の展望

効　果	周辺地域への波及効果が高く、農家の直販市は、「またやってほしい」という声が目立った。谷町界隈で行った料理イベントは音楽ライブなども行ったので、反応がよかった。大阪もんの人気を改めて痛感。
今後の展　望	今後、上町台地でマルシェを開催するなど、大阪もんの魅力を上町台地から広げたい。その意味で今回のような若手アーティスト×大阪もんのような企画は定期開催するべきである。

※「3　事業の時期と実施内容等」、「4　事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。

【様式4】

平成　22　年　　3　月　10　日

上町台地マイルドHOPEゾーン事業
まちづくり提案事業助成　事業報告書

1　申請団体・グループ名

空堀子どもまちづくりの会

共同事業者名（あれば記入してください）

近畿大学理工学部建築学科都市計画研究室

2　事業のテーマ・タイトル

空堀子どもまちづくり-みんなで考える空堀の魅力-

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3　事業の時期と実施内容等

時　期	実　施　内　容　等
7月	
8月	参加者募集
9月	
10月	第９回からほりまちアートに出展（併催イベント：空堀子どもまちアート）
11月	第１回「路地空間発見！」、第２回「理想の生活空間をつくろう」
12月	
1月	第３回「みんなでつくる都市計画」
2月	大阪市まちづくり担い手育成講座会場にてパネル展示

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4　事業の効果・今後の展望

効　果	からほりまちアートの中でのワークショップと３回の連続ワークショップを実施した。今年度は路地に着目し、地域に触れながら模型を使って、参加する子どもたちに改善提案を考えてもらった。協働作業により多数の提案がなされ、子どもにとって地域を考える貴重な機会となった。
今後の展　望	事前申し込みの連続ワークショップだけでなく、子どもたちが自由に参加でき、地域に触れる機会をつくりたい。子どもが地域の多世代と交流することにより、地域を視覚的にとらえるだけでなく、コミュニケーションを図ることにより、地域について理解を深めることが期待できる。また地域の大人たちが地域に関心を持つ機会も生み出す機会にしたい。

※「３　事業の時期と実施内容等」、「４　事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。

【様式４】

平成　22　年　　3　月　8　日

上町台地マイルドHOPEゾーン事業
まちづくり提案事業助成　事業報告書

1　申請団体・グループ名

「からほり新聞」制作チーム

共同事業者名（あれば記入してください）

2　事業のテーマ・タイトル

つたえたい文化「暮らしをつなぐ講座と絵本づくり」

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3　事業の時期と実施内容等

時　期	実　施　内　容　等
7月	打ち合わせ、からほり新聞紙面会議、講座の持ち方など会議
8月	打ち合わせ、からほり新聞校正、編集会議、講座の進め方など会議
9月	空堀新聞発行、配布、宣伝、講座開催水尻みちさん、たなかやすこさん
10月	講座開催千万多津子　絵本作家募集宣伝活動
11月	絵本、マップの作成会議、からほり新聞紙面会議
12月	からほり新聞取材、絵本作成のまち歩き、マップなどの作成会議
1月	からほり新聞校正、編集会議、絵本編集、校正会議
2月	絵本、マップ発行、配布、からほり新聞発行、配布

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4　事業の効果・今後の展望

効　果	からほりの見慣れた建物や地域の親しみある建物、町のたたずまいなど絵で表現し視覚に訴えたことで、地域のみなさんの関心を呼び起こしたようです。地域の皆さんに好評です。
今後の展望	中央区社会福祉協議会では、大きく引き伸ばし子供に紙芝居として紹介したいと問い合わせがありました。子供たちにも分かりやすい紹介が出来ると期待します。また空堀を地域の皆様が見直すきっかけになり、保存していきたいとの機運につながるよう期待します。

※「３　事業の時期と実施内容等」、「４　事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。

【様式4】

平成　22　年　　2　月　18　日

上町台地マイルドHOPEゾーン事業
まちづくり提案事業助成　事業報告書

1　申請団体・グループ名

日本学生支援機構大阪日本語教育センター

共同事業者名（あれば記入してください）

2　事業のテーマ・タイトル

留学生と遊ぼう！お国自慢カルタとり大会

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3　事業の時期と実施内容等

時　期	実　施　内　容　等
7月	留学生がかるたの読み札を作成、地域の小学生に取り札の絵を依頼 マスコミに取材の依頼
8月	協力校（小学校）に当日参加者を依頼
9月	巨大かるた作成作業開始
10月	巨大かるた作成作業
11月	ポスターチラシ作成、一般参加者募集開始（12月20日まで）
12月	協力校、一般参加者へ案内送付
1月	巨大かるた大会実施（1月9日）
2月	報告書作成・発送

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4　事業の効果・今後の展望

効　果	本センターに在籍する15カ国約40名の学生と主に上町台地に居住する日本のこどもたちが、世界の国の様子を書いた手作りカルタでともに遊ぶことによって、今まで知らなかった世界の様子がわかり、外国を身近に感じることができた。また留学生たちと直にふれあうことで外国への興味を抱くことのきっかけ作りにもなった。上町台地はその昔、世界との交流の拠点でもあったことから上町台地から国際化を発信することができた。
今後の展　望	地域のニーズを探り、留学生と地域住民が交流できるイベントや勉強会などを引き続き企画していきたい。

※「3　事業の時期と実施内容等」、「4　事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。

【様式４】

平成　　年　　月　　日

上町台地マイルドＨＯＰＥゾーン事業
まちづくり提案事業助成　事業報告書

1　申請団体・グループ名

からほり倶楽部(空堀商店街界隈長屋再生プロジェクト)

共同事業者名（あれば記入してください）

ロジモク研究会 大阪大学コミュニケーションデザイン・センター(ＣＳＣＤ) ＣＥＬ/上町台地コミュニケーション・ルーム(U-CoRo)

2　事業のテーマ・タイトル

ロジモク減災第２章～地域とともに考える手立ての獲得

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3　事業の時期と実施内容等

時　期	実　施　内　容　等
７月	９日：打ち合わせ第１回=協働者(大阪大学 CSCD、U-CoRo、ﾛｼﾞﾓｸ研究会)との今年度事業の方向性検討、U-CoRo 展示協力の内容検討等
８月	
９月	７日：打ち合わせ第２回=ロジモク減災現地見学会第１回の行程検討ならびに現地対応確認等 ７日：展示協力を行った上町台地コミュニケーション・ルーム(U-CoRo)での第９回展示『“減災キャラバン on 上町台地”の道程から』が開幕(2010/1/29 まで)
10 月	５日：打ち合わせ第３回=ロジモク減災現地見学会第１回の最終確認、全国路地サミットへの参加･交流検討、ロジモク減災勉強会素案検討 15 日：うえまち日本酒文化機構主催の「白川郷･飛騨高山ツアー」での併催事業として、「ロジモク減災現地見学会第１回(通算２回目)」『天正地震に消えた帰雲城跡見学』『飛騨高山にみる歴史的街並みでの防災』を実施 講師=岩田崇氏(高山市教育委員会文化財課学芸員) 24 日：「全国路地サミット 2009inKOBE」に参加。まち歩きプログラムへ参画しながら「被災地･神戸との交流事業『新長田駅北地区見学会』(通算２回目)」を実施 ﾅﾋﾞｹﾞｰﾀｰ=松原永季氏(スタヂオ・カタリスト) 昨年度のロジモク減災で訪問した神楽坂地区(特活)粋なまちづくり倶楽部(寺田弘氏、木村晃郁氏)メンバーと交流 25 日：(特活)レスキューストックヤードのイベント(名古屋)に参加。東海地域の防災・減災関係者と交流
11 月	２日：打ち合わせ第４回=ロジモク減災勉強会最終確認、現地見学会第２回･第３回の行程検討ならびに現地対応確認等 10 日：「ロジモク減災勉強会第１回(通算４回目)」『減災コミュニケーション入門』開催 講師=渥美公秀氏(大阪大学大学院人間科学研究科准教授、(特活)日本災害救援ボランティア・ネットワーク代表理事) 15 日：初めて開催された空堀桃園地区での防災訓練(会場：桃園公園)に参加 15 日：「生野コリアタウン共生まつり 2009」にて減災ゲーム“クロスロード”の『防災・減災ワークショップ』実施

	19 日：「ロジモク減災勉強会第２回(通算５回目)」『もしも上町断層帯が動いたら～救援ボランティアはどうやって来るの？』開催 講師=栗田暢之氏((特活)レスキューストックヤード代表理事) 21 日：「ロジモク減災現地見学会第 2 回(通算 3 回目)『上町断層帯を歩く～かかってこんかい！上町断層ツアー』 ﾅﾋﾞｹﾞｰﾀｰ：寒川旭氏(産業技術総合研究所関西ｾﾝﾀｰ招聘研究員)
12 月	12 日：「ロジモク減災現地見学会第３回(通算４回目)『京都･減災上ル下ル～古都･京都の町家群での減災は如何に』 ﾅﾋﾞｹﾞｰﾀｰ：高田光雄氏(京都大学大学院工学研究科教授) 講師=高瀬博章氏(上京区社会福祉協議会会長)、上林研二氏(地域生活空間研究所、祇園町南側地区まちづくり協議会理事)
1 月	26 日：減災カフェ in 上町台地「減災キャラバンの一歩から考える生活文化としての減災」開催協力ならびに参加
2 月	1 日：打ち合わせ第５回=今年度ロジモク減災振り返り、来年度事業の検討、減災カフェへの対応確認等 19 日：減災カフェ『「いのちをまもる智恵」の伝え方・伝わり方』開催(ロジモク減災勉強会第３回に該当) 語り手=栗田暢之氏((特活)レスキューストックヤード代表理事)、渥美公秀氏(大阪大学大学院人間科学研究科准教授)、花村周寛氏(大阪大学ＣＳＣＤ特任教員)、関川華氏(京都大学大学院工学研究科博士課程) ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ=菅磨志保氏(大阪大学ＣＳＣＤ特任教員) 27･28 日：「第 5 回静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練」に参加

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4　事業の効果・今後の展望

効　果	路地と長屋にマンションなどまちの構造も住民関係も複雑で、地域への誇りや愛着も強い一方、再開発への動きも加速する空堀界隈で防災・減災へのアプローチを具体的に考えていくため、昨年度に引き続き“手立て”の獲得に力を入れました。 そこで、ロジモク減災第 1 章では、地域特性を共有し、ともにアプローチ方法を考えていける講師陣やネットワークを獲得することに、より重きを置きました。 【効果】 ◇ 大阪大学コミュニケーションデザイン・センター(CSCD)とのタイアップによる関係強化 昨年度も共同事業者であった大阪大学ＣＳＣＤとの関係をさらに一歩進めるべく、ＣＳＣＤプログラムである「減災カフェ」と「ロジモク減災」の一体化を試み、企画・広報・運営を協働で行いました。それにより、互いのノウハウの共有、地域事情や研究事情の相互理解などが図られ、今後の中長期的展開をともに考えていくことで合意が得られました。また、空堀界隈が防災・減災に関わる研究者のフィールドとも成り得ることで、大学という枠を通した住民へのアプローチ方法も獲得できました。 ◇ 多彩な講師陣との出会いとつながり ロジモク減災勉強会での講師陣も、昨年度に引き続き研究者や実践者など多彩な顔ぶれを招くことが出来、さらにつながりも継続・発展させていくことができました。 また、これら講師陣には、上町断層や東南海地震などと向き合わなければならない空堀界隈や上町台地に、関心を抱いてもらう

	こともできました。ロジモク減災の取り組みを通じた防災・減災関係者に対する空堀界隈や上町台地への注意喚起は、空堀界隈はもちろん、上町台地全体での防災・減災力の獲得・向上につながるものと考えます。 ◇ 上町台地上や台地外との連携・協働の拡充 上町台地コミュニケーション・ルーム(U-CoRo)との連携にも引き続き取り組んだことで、ロジモク減災勉強会などの事業ＰＲや結果報告を充実させることができました。昨年度協力実施した「減災キャラバン on 上町台地」などで培われた高津宮や下寺町、コリアタウンなど近隣地域とのつながりも継続・強化することができました。 昨年度の課題でもあった近隣の学校へのアプローチについては、大阪府教育センターとの防災・減災での連携・協働を来年度から具体化する方向で調整に入っています。また、同じく課題であった地元地域へのアプローチについても、はじめて開催された防災訓練への参加を通じて、糸口が見えてきました。 ロジモク減災現地見学会では防災・減災に長年取り組む先進地(京都や飛騨高山など)を訪ね、多くの先達たちに出会うことが出来ました。また、昨年度のロジモク減災で出会うことが出来た神戸・長田や東京・神楽坂などの他地域との交流も継続することが出来ました。勉強会の講師も引き受けていただいた名古屋の災害救援ＮＰＯとは、相互訪問も実現したほか、静岡県での災害救援図上訓練に参加する契機にもなりました。 こうした他地域との出会いとつながりの拡充から、将来的な防災・減災に対する「地域ネットワーク」の可能性も見えてきました。

今後の展望	ロジモク減災も来年度は 3 年目に入ります。いよいよ地元・空堀界隈への具体的アプローチを試みる段階となりますが、これまでに獲得したネットワークと今年度得た糸口(防災訓練等)を活かしながら、地元地域とともに継続していける取り組みへと昇華させていきたいと考えます。 ◇ 地元地域への防災・減災での具体的アプローチ 地元地域での防災・減災への気運も高まりつつあり、昨年度は空堀桃園地区で防災訓練も開催され、からほり倶楽部も参加しました。講師陣や共同事業者からも地元地域へのアプローチに対して、具体的なアイデアを頂戴したり、協力の申し出を得たりもしています。 来年度はからほりまちアートでの防災・減災イベントの併催、地元地域での防災訓練へのプログラム提案の実施など具体的アプローチを行い、再来年度以降の取り組み拡充に向けたステップを得たいと考えます。 ◇ 講師陣や他地域とのネットワークのさらなる拡充 ロジモク減災勉強会や現地見学会は引き続き開催しながら、講師陣や他地域とのネットワークのさらなる拡充に努めます。勉強会と現地見学会については広くオープン開催のものをプラスしつつ、これまでどおり比較的小規模ながら講師と参加者が濃密に交流できる形式も継続させ、新たな講師の獲得も図りたいと考えます。 また、可能性が見えてきた「地域ネットワーク」についても、伝統的街並みや木造密集地域を有する他地域との連携を中心に、その組織化を具体的に検討・打診していきたいと考えます。 ◇ 次代の担い手の獲得 防災・減災は言うまでもなく息の長いエンドレスな取り組みであります。ロジモク減災はその立ち上げ期を比較的順調に歩みつつありますが、その取り組みの継続力・発展力を高めるためには「次代の担い手」の獲得も肝要になってきます。 来年度からは「次代の担い手」と成り得る人材の巻き込みも図るべく、10代・20代への働きかけも強めていきたいと考えます。

※「3　事業の時期と実施内容等」、「4　事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。

【様式4】

平成　22　年　　3　月　10　日

上町台地マイルドHOPEゾーン事業
まちづくり提案事業助成　事業報告書

1　申請団体・グループ名

NPO　後悔しない家造りネットワーク≪いい家塾≫

共同事業者名（あれば記入してください）

2　事業のテーマ・タイトル

「上町台地　庭から考える都市居住」～なにわのエエ庭みぃつけた～

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3　事業の時期と実施内容等

時　期	実　施　内　容　等
7月	
8月	
9月	
10月	
11月	8日(日)　13時～15時50分
12月	
1月	
2月	

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4　事業の効果・今後の展望

効　果	一般参加者73名。 「上町台地エエ庭マップ」の作成。 上町台地マイルドHOPEゾーンエリア内の庭の魅力を参加者に認知していただいた。
今後の展望	第2回の開催を検討中。 今回作成した「エエ庭マップ」で紹介した庭を、自転車で巡るツアーを検討中。(協力：自転車文化タウン作りの会)

※「3　事業の時期と実施内容等」、「4　事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。

歴史的市街地におけるアートイベントの空間特性

- からほりまちアートを事例として -

近畿大学大学院総合理工学研究科環境系工学専攻　上段貴浩

１．はじめに

1-1　研究の背景・目的

本研究は大阪市中央区空堀地区で行われているからほりまちアートを対象に、まちなかの生活空間をアート表現の場とした際の展示場所の空間特性について明らかにすることを目的とする。

からほりまちアートは空堀地区に残る長屋や路地などの地域資源を多くの人々に伝える活動として行われている。まちなかの様々な場所にアート作品を展示することでアートと共にまちなかを散策することができるため、来場者が空堀地区の町並みや地域資源を知るきっかけとなっている。またアーティストの表現手法や展示方法により人々の行為に変化が生まれ、普段とは違うまちの見方ができることになる。つまり空堀地区の町並みとアーティストの展示手法により、からほりまちアートの魅力が引き出されると考えられる。

からほりまちアートに人々が惹きつけられるのは、単にまちとアートの融合という奇抜さだけではなく展示場所の空間構成や展示手法にあると考え、生活空間から展示空間に変化する際の空間の特徴や来場者の行為について述べることとする。

1-2　研究方法

本研究の成果は2009年10月25，26日の２日間に行われたイベント時における現地調査に多くを依拠している。展示場所54ヵ所について、a)平面図と立面図の採取、b）作家へのヒアリング調査、c）アクティビティ調査を行った。研究において着目するのは以下の３点である。

１）展示場所の空間構成：採取した図面から展示場所の空間形態や構成要素について分析する。

２）展示場所の利用方法：作品形態や展示方法から生活空間を展示場所としてどのように利用しているのかについて調査する。

３）来場者の行為：展示場所に２時間滞在し、目視と写真撮影から来場者の行為を取り上げ、日常時との行為の変化を分析する。

２．からほりまちアートの概要

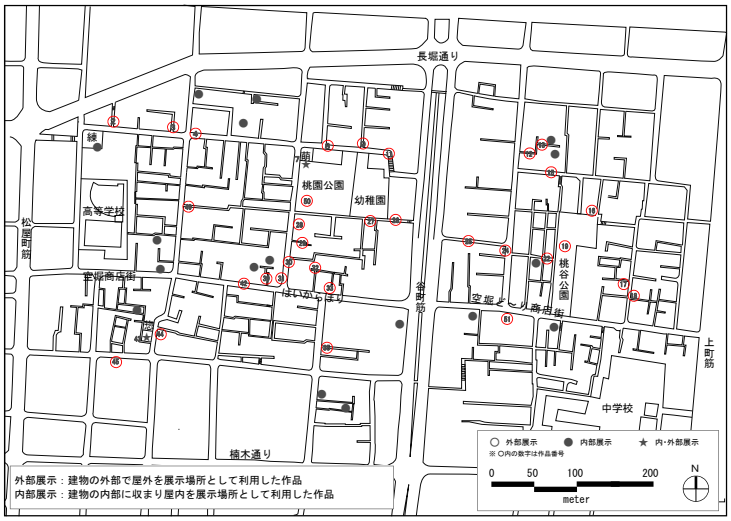
空堀地区は大阪の都心では珍しく戦災を免れたことにより、多くの長屋や路地が残るなど昔の町なみを今に伝えている。その町なみを多くの人々に伝える活動として2001年から開催されたからほりまちアートは2009年で９回目を迎える。毎年10月下旬の２日間で行われるこのイベントは約１万人の来場者が訪れ、メディアにも取り上げられている。開催エリアは約30haと広大であり、まちなかの様々な場所に点在するように作品が展示されている（図1）。出展アーティストはプロ・アマ問わず一般の公募で集めている。

３．展示場所の空間特性

まちなかの生活空間を展示場所として利用した際に作品や展示方法に大きく影響を与えると考えられる外部展示35作品（図1）を対象に、展示場所の空間形態と利用方法から展示空間の類型化を行い、その特徴について明らかにする。

3-1．展示場所の分類

まちなかの様々な場所を利用する外部展示では①通路タイプ（道路上または道路沿いに建つ建物壁面）②広場タイプ（建物に占有されていない空地や公園）の２つに大別することができる。また通路タイプに展示される際には建物前面または建物壁面を利用した展示がされることから、壁面形態に着目すると展示場所の空間形態は７つに分類することができる（図2，図3）。



2	北川聖子	9	森龍沙耶香	17	奈良じゅん	28	松見鵬子	32	平石ゆか	44	nissyとひまわりの子供たち
2	関西情報工学院専門学校	11	mipo	18	狂！！祭	27	Colin Smith	33	愛珠＋みやたゆう	45	2/3
3	明日を見つけた！	12	結佐陽師	19	僕たちはひとりじゃない	28	プリンス自転車	35	西川由紀子	49	西家
4	たんぽ	13	GRADD	22	内藤晶	29	ナカハシヨシユキ	39	ナウロコ×BS	50	「タケノモリ」
7	北中美佳	15	なかがわちはや	24	井上寛太	30	ちむじふ	42	はまのまゆみ	51	空堀子どもまちアート
8	糸山基子	16	伊勢利枝	25	HIROMI	31	なすみそいため	43	墨絵のたけマン	※数字は作品番号，文字は作家名	

図1　からほりまちアート開催エリア全体図と外部展示作品一覧表

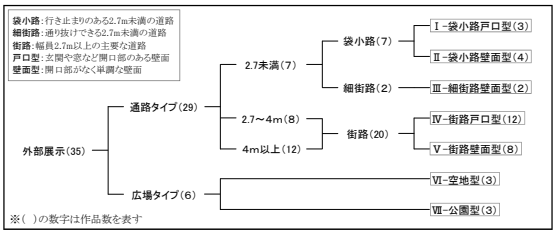


図2　空間形態の類型手法

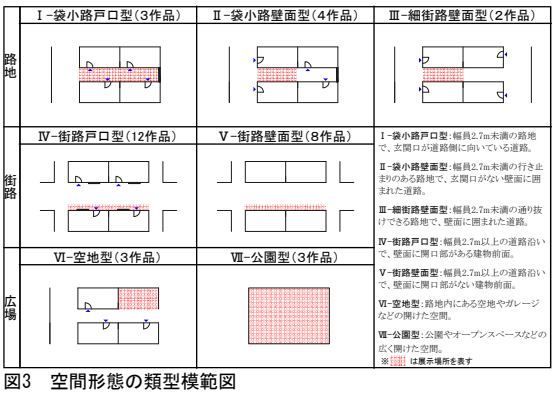


図3　空間形態の類型模範図

3-2. 作品形態と展示方法

からほりまちアートに展示される作品は多岐に渡るが作品形態と展示方法から①平面型（47%）②立体型（12%）③空間演出型（10%）④参加型（10%）の４つに分けることができる。また展示方法は作品や展示場所によって様々であるが大きく①置く②掛ける③吊るすの３つに分けられる。

3-3. 展示空間の類型と特徴

外部展示35作品を７つの空間形態と作品形態、展示方法から展示空間の類型化を行った結果、９つの空間タイプに分類することができた（表1）。また展示場所の特徴をさらに詳しく分析するため、展示手法に影響を与えると考えられる要素を抽出し、その特徴を分析した（表2）。以下に路地を利用した展示空間について特徴を示す。

タイプⅠ：石畳の路地や統一感のある建物に囲まれた昔ながらの町なみを感じる空間は路地全体を利用した空間演出型の作品が展示される。

タイプⅡ：トタンの壁面に囲まれた閉鎖的な路地は入口付近の道路上を広く利用した立体型の作品が展示される。

タイプⅢ：木造やトタンの壁面に囲まれ、不特定の人が利用する路地では平面型の作品を壁面に掛けて展示される。

以上から空間タイプによって作品形態や利用方法には一定の共通性があると言える。

４．展示場所における来場者の行為

次にタイプ別に作品事例を取り上げ、展示場所で見られた来場者の行為を①作品を見る行為②作品から誘発される行為③作品を見る以外の行為の３つに分けて抽出した（表3）。作品を見る行為ではしゃがむ、石に座る、上を見上げる、建物に近づくなど普段とは違う行為が誘発されていることが分かった。また作品から誘発される行為では作品と石畳の写真を撮る、植栽の写真を撮る、遠くから作品と建物全体を見る、空地全体を見渡すなど作品だけに注視するのではなく作品の背景にも注目していることが分かった。

５．結論

本研究では展示場所における空間の特徴と来場者の行為について述べた。以下にまとめる。

①展示場所を空間形態と利用方法から９つのタイプに分類し、その特徴について明らかにした。

②展示場所によって多種多様な利用がされると考えられるが、展示場所と利用方法には因果関係があることを明らかにした。

③来場者は作品が展示されることで日常時には見られない多様な行為が誘発されていることを明らかにした。つまり作品がまちと人との繋がりを広げていると言える。

④来場者は作品だけに注視するのではなく、作品の背景である建物や石畳にも注目していることを明らかにした。つまりからほりまちアートを魅力的にさしている要因として作品の背景である町なみが大きく関係していると言える。

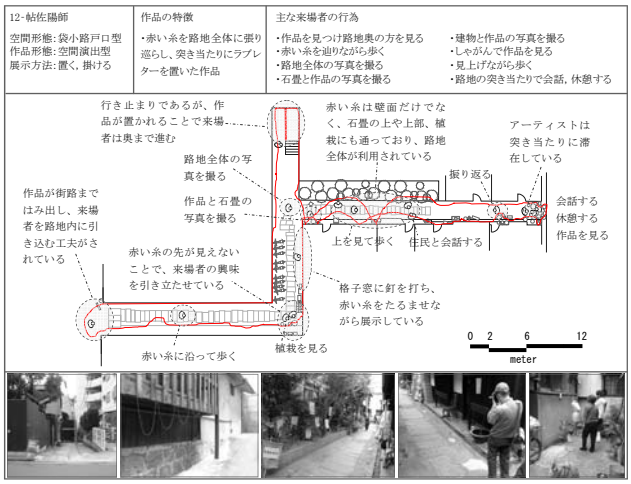


図4　タイプＩの作品事例

表1　空間タイプの類型化

タイプⅠ	袋小路戸口型	―	空間演出型	―	置く・掛ける	タイプⅤ−①	街路壁面型	―	平面型	―	置く
タイプⅡ	袋小路壁面型	―	立体型	―	置く	タイプⅤ−②	街路壁面型	―	平面型	―	掛ける
タイプⅢ	細街路壁面型	―	平面型	―	掛ける	タイプⅥ	空地型	―	立体型	―	置く
タイプⅣ−①	街路戸口型	―	立体型	―	置く	タイプⅦ	公園型	―	参加型	―	置く
タイプⅣ−②	街路戸口型	―	平面型	―	掛ける						

※左から「展示場所」−「作品形態」−「展示方法」を表す

表2　外部展示の空間特性一覧表

タイプ	No.	出展作家名	空間タイプ	道路形態				道路幅			作品形態				展示方法			位置			壁面素材					D/H比			空間構成要素									
		カテゴリー		広場型	袋小路	細街路	街路	2.7m未満	2.7～4m	4m以上	平面型	立体型	空間演出型	参加型	置く	掛ける	吊るす	直線路	T字路	L字路	木造	トタン	モルタル	コンクリート	その他	0～0.4	0.4～0.8	0.8～	玄関口	格子窓	軒	天井	石畳	段差・石段	植栽	室内機	生活雑音	その他
I	12	帖佐陽師	■		■			■					■		■	■		■					■			■			■	■	■		■		■	■	■	■
	39	ナウロコ×BS	■		■			■					■		■	■		■					■			■			■	■	■		■		■	■	■	■
		計(2)	2		2			2					2		2	2		2			1		1			2			2	2	1		2		2	2	2	2
II	2	北川聖子	■		■			■					■		■	■		■					■			■			■	■	■		■		■	■	■	■
	3	明日を 見つけた！	■		■			■					■		■	■		■					■			■			■	■	■		■		■	■	■	■
	33	愛珠＋みやたゆう	■		■			■					■		■	■		■					■			■			■	■	■		■		■	■	■	■
		計(3)	3		3			3					3		3			3			3					2	1					1	2		2	1	1	2
III	35	西川由紀子	■		■			■			■		■		■	■		■			■		■			■	■		■	■	■		■		■	■	■	■
	49	西家	■		■			■			■		■		■	■		■			■		■			■	■		■	■	■		■		■	■	■	■
		計(2)	2		2			2			2		2		2			2			1	1				1	1					1				1	1	2
IV−①	8	糸山恵子	■		■			■			■		■		■	■		■			■		■			■	■		■	■	■		■		■	■	■	■
	17	奈良Cぉん	■		■			■			■		■		■	■		■			■		■			■	■		■	■	■		■		■	■	■	■
	18	狂ＩＩ期	■		■			■			■		■		■	■		■			■		■			■	■		■	■	■		■		■	■	■	■
	25	4ROMI	■		■			■			■		■		■	■		■			■		■			■	■		■	■	■		■		■	■	■	■
		計(4)	4			4		3	1		4				4	1		3	1		2		1	1		3	1		4	1	2				3	1	1	1
IV−②	4	たん壁	■		■			■			■		■		■	■		■			■		■			■	■		■	■	■		■		■	■	■	■
	7	北中美佳	■		■			■			■		■		■	■		■			■		■			■	■		■	■	■		■		■	■	■	■
	11	Mpo	■		■			■			■		■		■	■		■			■		■			■	■		■	■	■		■		■	■	■	■
	24	井上賀太	■		■			■			■		■		■	■		■			■		■			■	■		■	■	■		■		■	■	■	■
	43	墨絵のだけマン	■		■			■			■		■		■	■		■			■		■			■	■		■	■	■		■		■	■	■	■
	44	Issyとひまわりの子供たち	■		■			■			■		■		■	■		■			■		■			■	■		■	■	■		■		■	■	■	■
		計(6)	6			6			6	6					6			2	3	1	1		3	2				6	5	4	3			2	3	3	5	2
V−①	9	路面分部屋	■		■			■			■		■		■	■		■			■		■			■	■		■	■	■		■		■	■	■	■
	15	なかがわちはや	■		■			■			■		■		■	■		■			■		■			■	■		■	■	■		■		■	■	■	■
		計(2)	2			2		2		2					2			2			1			1		2									2			
V−②	22	内藤晶	■		■			■			■		■		■	■		■			■		■			■	■		■	■	■		■		■	■	■	■
	26	松見麗子	■		■			■			■		■		■	■		■			■		■			■	■		■	■	■		■		■	■	■	■
	27	Colin Smith	■		■			■			■		■		■	■		■			■		■			■	■		■	■	■		■		■	■	■	■
	31	なすみそいため	■		■			■			■		■		■	■		■			■		■			■	■		■	■	■		■		■	■	■	■
	42	はまのまゆみ	■		■			■			■		■		■	■		■			■		■			■	■		■	■	■		■		■	■	■	■
		計(5)	5			5		3	2	5					5			5					2	3		2	3					1	1		1	1		
VI	16	伊勢利枝	■		■			■			■		■		■	■		■			■		■			■	■		■	■	■		■		■	■	■	■
	29	ナカハシヨシユキ	■		■			■			■		■		■	■		■			■		■			■	■		■	■	■		■		■	■	■	■
		計(2)		2	2			2					2		1	2		1			1	1				2	2					1			2	1	1	1
VII	19	僕たちはひとりじゃない	■		■			■			■		■		■	■		■			■		■			■	■		■	■	■		■		■	■	■	■
	50	タケノモリ	■		■			■			■		■		■	■		■			■		■			■	■		■	■	■		■		■	■	■	■
	51	窟姫子どもまち アート	■		■			■			■		■		■	■		■			■		■			■	■		■	■	■		■		■	■	■	■
		計(3)		3		3			3		2		3		3			3						3				3	1			1			2			2
合計(29)			24	5	7	2	20	9	8	12	15	11	2	4	16	16	2	17	10	2	6	4	5	6	8	9	10	10	12	7	6	3	3	2	18	9	11	12

表3　展示場所における来場者の行為

	タイプⅠ	タイプⅡ	タイプⅢ	タイプⅣ	タイプⅤ	タイプⅥ	タイプⅦ
作品を見る行為	・作品を辿りながら歩く ・しゃがんで作品を見る ・見上げながら歩く	・座って作品を見る	・近づいて作品を見る ・道路の向かい側から作品を見る	・道路の真ん中から作品を見る ・向かいの建物から作品を見る ・歩きながら作品を見る	・作品に近づいて見る ・歩きながら作品を見る ・しゃがんで作品を見る	・上を見上げて作品を見る ・しゃがんで作品を見る	・歩きながら作品を見る ・作業風景を写真に撮る
作品から誘発される行為	・作品を見つけ、路地奥へ入り込む ・作品と背景の石畳を見る ・作品と背景の建物を見る	・作品に釣られて路地奥まで進む ・路地内に入り込む	・遠くから作品と建物全体を見る ・作品に近づき壁面素材に注目する ・路地奥へと歩いていく	・その場に長時間滞在する ・作品を見た後、建物内に入る	・向かい側にある石に座る ・自転車をゆっくりと走らす ・自転車を降りる	・見上げながら歩く ・作品を探す ・空地を見渡す	・その場に居座る ・作品の背景である植栽の写真を撮
作品を見る以外の行為	・住民を会話する ・路地の突き当たりに居座る	・路地の入口付近で会話する ・祠の写真を撮る ・向かいに溢れ出す植栽を見る	・作品に気付かずに通り過ぎる	・離れた場所から空間全体の写真を		・周辺の物や植栽の写真を撮る	

明治後半期における旧三郷の居住空間について
南区内安堂寺町２丁目を事例として（要旨）

大阪市立大学　都市研究プラザ　深田智恵子

はじめに

近代大阪の都市空間に関してはこれまで建築史、経済史、都市計画史、都市社会史、地理学など多方面から研究がなされてきた。これまでの研究では、資本主義経済の発達による都市内空間の機能分化、すなわち中心市街地（船場）の業務空間化と居住空間の郊外化が都市空間の近代化として捉えられ、近代的都市空間を象徴する郊外住宅地の開発とその空間構造が詳細に論じられてきた。また一方で、旧三郷外縁部に形成されたスラム地区の居住環境や都市下層の生活実態の分析がなされている。しかし、近代における旧三郷の居住空間の実態は、史料的な制約からこれまで詳細な検討がなされていない。現在、大阪都心部に伝統的な町家が少なからず残されていることが示すように、船場などの中心市街地を除いて、旧三郷地域には明治以降も近世以来の店舗兼居宅と貸家で構成される伝統的な居住空間が継承されていたと考えられる。

本研究は明治初期より大阪市南区内安堂寺町に居住し、広く貸家業を営む一方で、南区会議員を務めるなど地域行政に携わった井上平兵衛家に保存された文書群（「井上平兵衛家文書」）のうち、「明治 33 年内安堂寺町２丁目絵図」【写真 1】（以下「町絵図」）と「明治 34 年内安堂寺町２丁目住人調査」（以下「住人調査」）を素材として、近代大阪（旧三郷地域）の居住空間の実態を把握することを目的としている。具体的には、①町の空間構造、②内安堂寺町２丁目全体の生活設備、③住人の職業構成、を分析し明治後半期における大阪都心部の居住環境を考察した。

内安堂寺町２丁目の空間構造

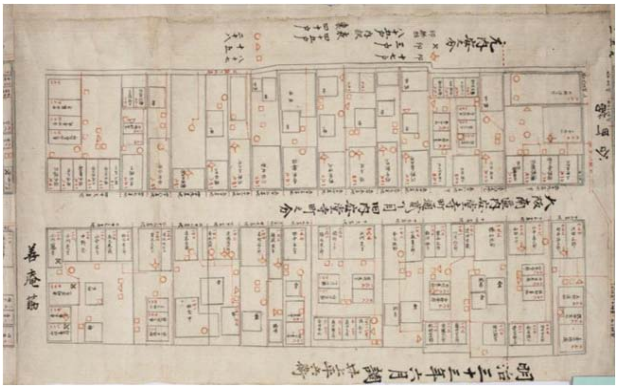
「町絵図」を分析すると明治 33（1900）年における内安堂寺町の宅地数は北側 42 筆、南側 33 筆の合計 75 筆であった。安政 3 年水帳絵図と比較すると、若干の変動はみられるものの顕著な宅地の集積や細分化はみられず、同町内では江戸後期から明治後期までの約 50 年間、ほぼ同じ敷地割が継続されていた。

各宅地の間口規模を分析すると 3 間以上 4 間未満と 4 間以上 5 間未満が同数の 19 筆で、これらが町内全宅地の過半を占めている。同町では突出した大規模宅地は一部で、比較的均等な宅地の集合により町空間が構成されていた。

街並みを形成する表通りの建物は、北側 42 棟、南側 38 棟、筋側に 19 棟の計 99 棟で、戸建と長屋建の比率は、戸建 62 棟、長屋建 37 棟で、戸建がおよそ 6 割を占めていた。長屋の戸数をみると 2 戸が 18 棟、3 戸が 10 棟、4 戸が 6 棟、5 戸が 2 棟、6 戸が 1 棟で、長大な長屋は少数で 1 棟に 2～3 戸の長屋が主流であった。

一方、宅地裏は、住宅の他に倉、納屋、あるいは離れなどの付属屋が配置されていた。表側と裏側を合わせ、宅地全体の利用形態を整理すると、①表家のみ（裏利用無し＝空地）、②表家・付属屋のみ（裏に住宅無し）、③表家・裏家（付属屋併設も含む）の 3 つに分類することができる。

①の宅地を詳細にみると、奥行が浅い宅地、角地のため建物がすべて表家となる宅地が大半を占め、未利用の空間が残っている宅地は 1 例だけであった。②は、離れや蔵、納屋などの付属屋が建てられ、裏空間が表



【写真 1】「明治 33 年内安堂寺町２丁目絵図」（部分）

上町台地マイルドＨＯＰＥゾーン協議会　調査研究助成対象

家の居住空間の充実に利用された形態である。28 事例がみられ、このうち表家 1 戸の単世帯が 19 宅地みられる。③は、表家に加えて宅地奥にも住居が建てられており、複数の世帯が集住する形態で、32 例であった。

宅地利用形態の分類に、地主居宅、地借家主、借家という家屋の所有形態を指標に加えると、地主が居住する宅地は表居宅と離れ、倉・納屋など付属屋によって構成される低密度な単世帯の宅地が多く、一方、不在地主の宅地は高密度な貸家経営地が多いという傾向がみられた。2 丁目全体をみると、低密度な単独居住の宅地と、高密度な集住宅地が同じような比率で存在していた。

内安堂寺町 2 丁目の衛生環境

「町絵図」から内安堂寺町の衛生設備の普及状況を分析すると厠については、表 158 戸・裏 129 戸の計 287 戸に対して 234 ヶ所がおかれ、各戸に 1 ヶ所ずつ設置されている敷地も多く、高い普及率であった。井戸は、各戸が専用井戸を持っている宅地もあったが、設置されていない宅地もみられる。井戸の有無については、明治中期から水道の敷設が始まっていたことを考慮に入れる必要がある。井上平兵衛が同町内に所有していた貸家の管理台帳をみると、明治 30 年の 8 月～11 月にかけて家賃に給水費用が加算されており、この地域で上水道の給水が開始されたことが示されている。したがって明治 33 年当時、井戸が不要となっていた宅地もあったと思われる。塵芥場については、法令で住家に設置が義務付けられていたが、設置は少数にとどまり基準を満たさない宅地が大半であった。

このように衛生設備の整備状況は厠については専用化が進んでいたが塵芥箱は設置率が低く、設備によって差があった。また、上水道栓を設置している宅地も確認され、都市の基盤整備により近代的設備が生活空間に導入され始めた様子が示されていた。

内安堂寺町 2 丁目の住人構成

「住人調査」に基づき、内安堂寺町 2 丁目居住者の職業構成を分類すると、明治 34 年の時点で、表家居住者の職業は物品販売の小売店経営が全体の 7 割以上を占めていた。販売商品の内容は食料品、生活雑貨、衣料、燃料など生活必需品類が多岐にわたり、その中でも食料品が最も多数であった。また、古着、古鉄、古道具などの中古品を扱う商店も多く、全体の 1 割を占めている。その他、理髪店や飲食店経営などの接客・サービス業、医院、建設請負業などがみられる。また、少数ではあるが工場経営者が存在した。宅地における工場の建設・操業は近代以降の新たな宅地利用のありかたといえる。

地主、地借家主、借家人という居住者の階層性を指標にくわえて職業構成を細分類すると、呉服店、医院経営者には地主が多かった。接客・サービス業に地主はみられず、地借家主、戸建貸家の入居者を合わせて 3 名である。したがって、飲食店や理髪店といった接客業を中心とするサービス関連業は長屋貸家の居住者を中心に行われていたと考えられる。

裏家居住者の職業は行商、被雇、内職などが大半を占め、表家の居住者と比べて全体的に経済的階層が低い傾向がみられた。しかし、近世以来の手工業者（職人）や、近代以降に現れるサラリーマン層、工場経営者といった安定した経済基盤をもつ住人も存在し、宅地裏側の居住空間には、多様な階層の人々が混在して居住していた。

おわりに

明治 30 年代の内安堂寺町 2 丁目は、通りに多種多様な商店が軒を並べ、町内で一通りの生活必需品を調達することが可能な生活世界が形成されていた。町の空間構造をみると、表に店舗兼居宅を置き、裏には離れや付属屋を置く、或いは貸家経営を行うなど、近世以来の伝統的なありかたが存続していた。その一方で、上水道が設置されるなど近代都市としての基盤整備が進められていた。また、住人のなかには宅地裏に工場を建設して製造業を営む経営者や、公務員、会社員といった新しい都市生活者層が出現しており、居住空間の内部で近代化が進行しつつあった状況を窺うことができた。